

## Ⅱ 結果の内容

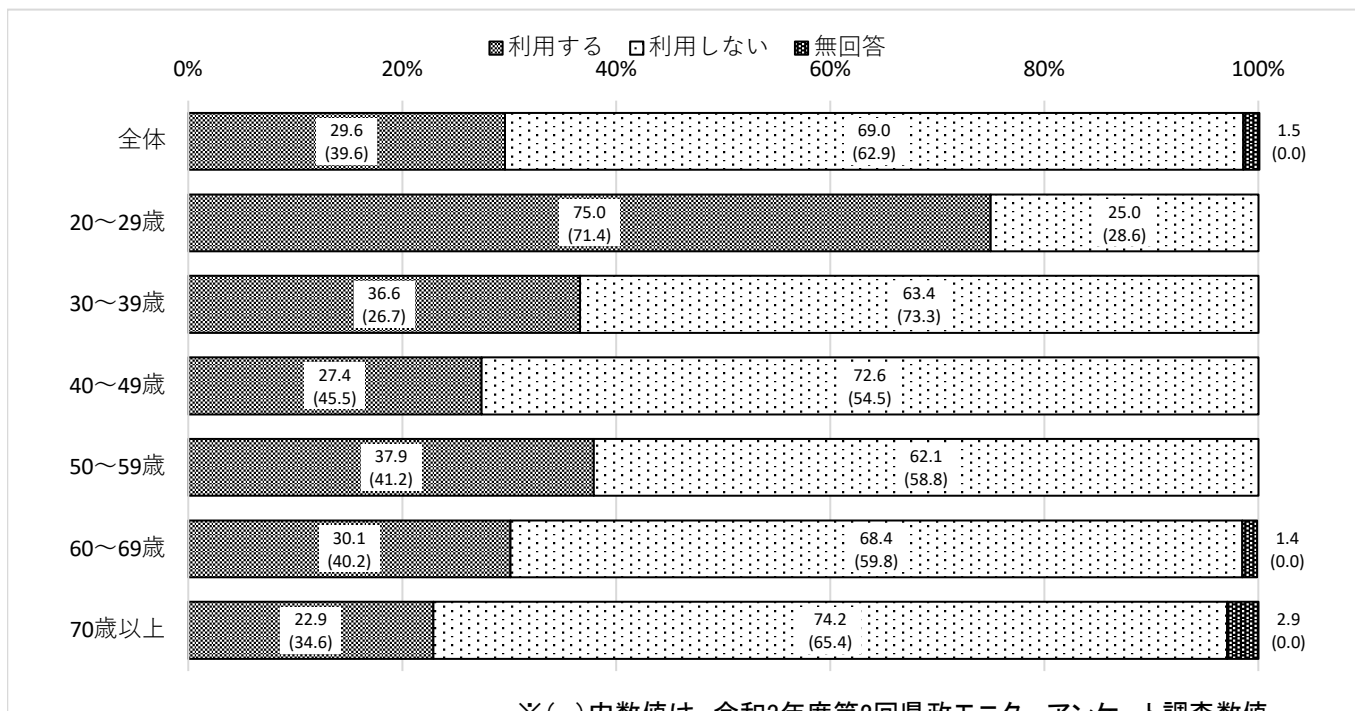
## 《自転車の利活用、保険加入等について》

＜自転車の利用状況＞  
「自転車を利用する」が約3割

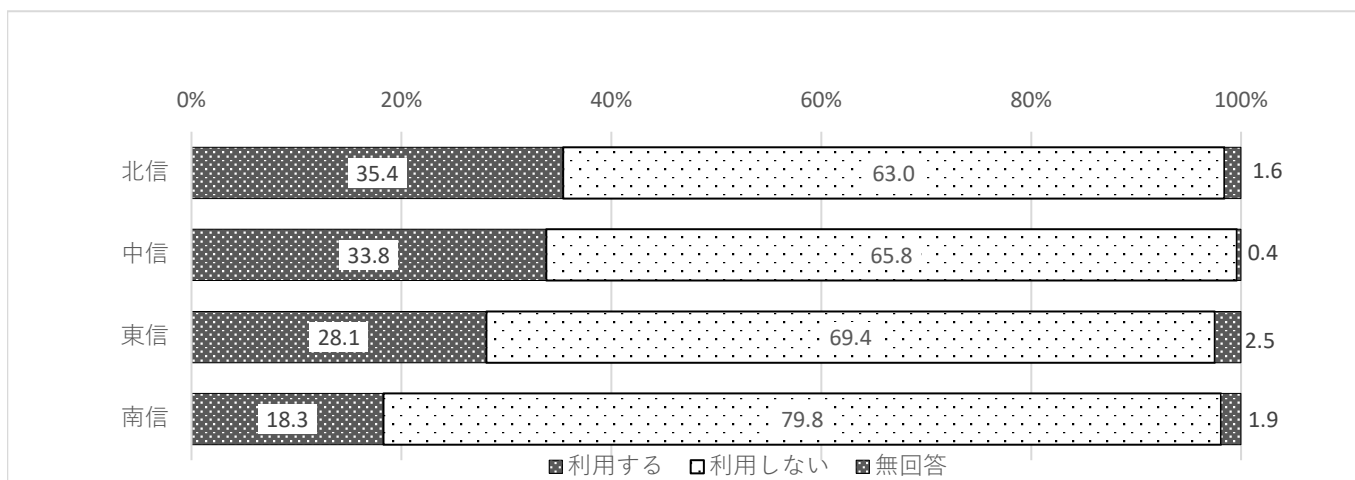
問1-1 自転車の利用(シェアサイクル、レンタルサイクルを含みます。)と自転車損害賠償保険等の加入についてあなたの状況に近いものを選んでください。(○は1つ)

	今回調査n=822		(参考)前回調査 R3.12月調査n=439	
	回答数 (人)	割合 (%)	回答数 (人)	割合 (%)
自転車を利用する	243	29.6	174	39.6
自転車を利用しない	567	69.0	265	60.4
無回答	12	1.5	0	0

●自転車を利用する者の割合は、年代別では20代が75.0%と最も高い。次いで50代(37.9%)が高く、最も低いのは70代で22.9%となっている。



●広域別では北信が35.4%と最も高い。次いで中信(33.8%)が高く、最も低いのは南信で18.3%となっている。



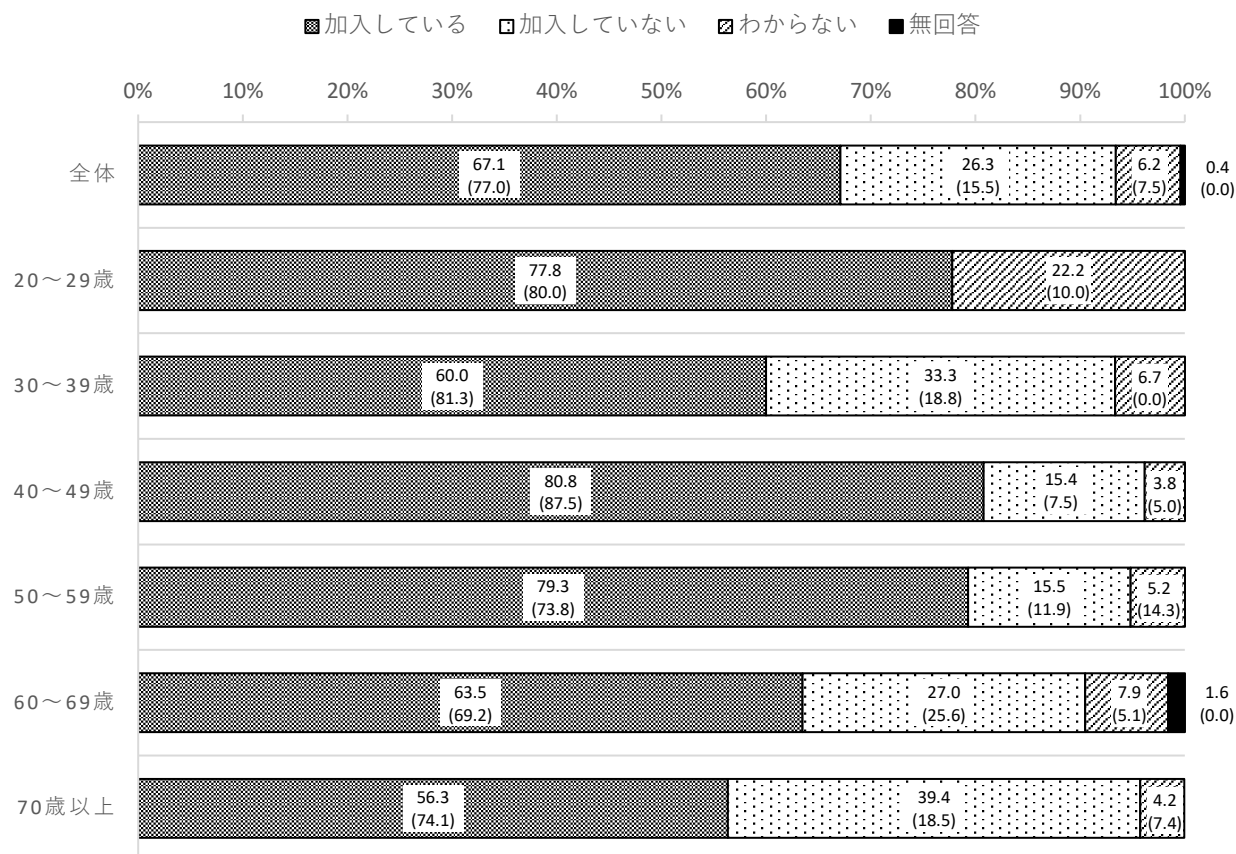
＜自転車損害賠償保険等への加入状況＞  
「はい(加入している)」が7割弱

※問1-1で「自転車を利用する」を回答した方のみ

問1-2 自転車損害賠償保険等に加入していますか。当てはまるものを選んでください。(自転車本体に掛けられる保険や、回答者本人が補償対象者となる保険(共済)契約等を含みます。)(○は1つ)

	今回調査 n=243		(参考)前回 R3.12月調査n=174	
	回答数 (人)	割合 (%)	回答数 (人)	割合 (%)
はい	163	67.1	134	77
いいえ	64	26.3	27	15.5
わからない	15	6.2	13	7.5
無回答	1	0.4	0	0

●「はい(加入している)」が67.1%であり、年代別の加入率は40代が80.8%で最も高い。



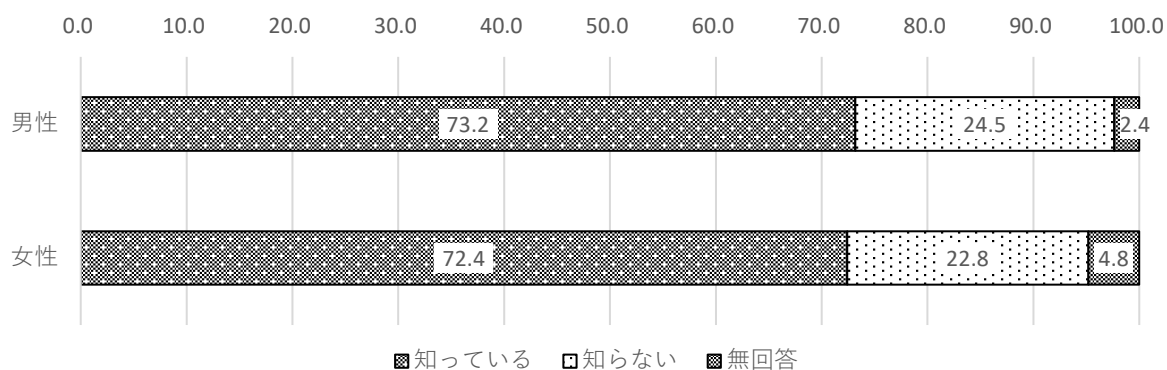
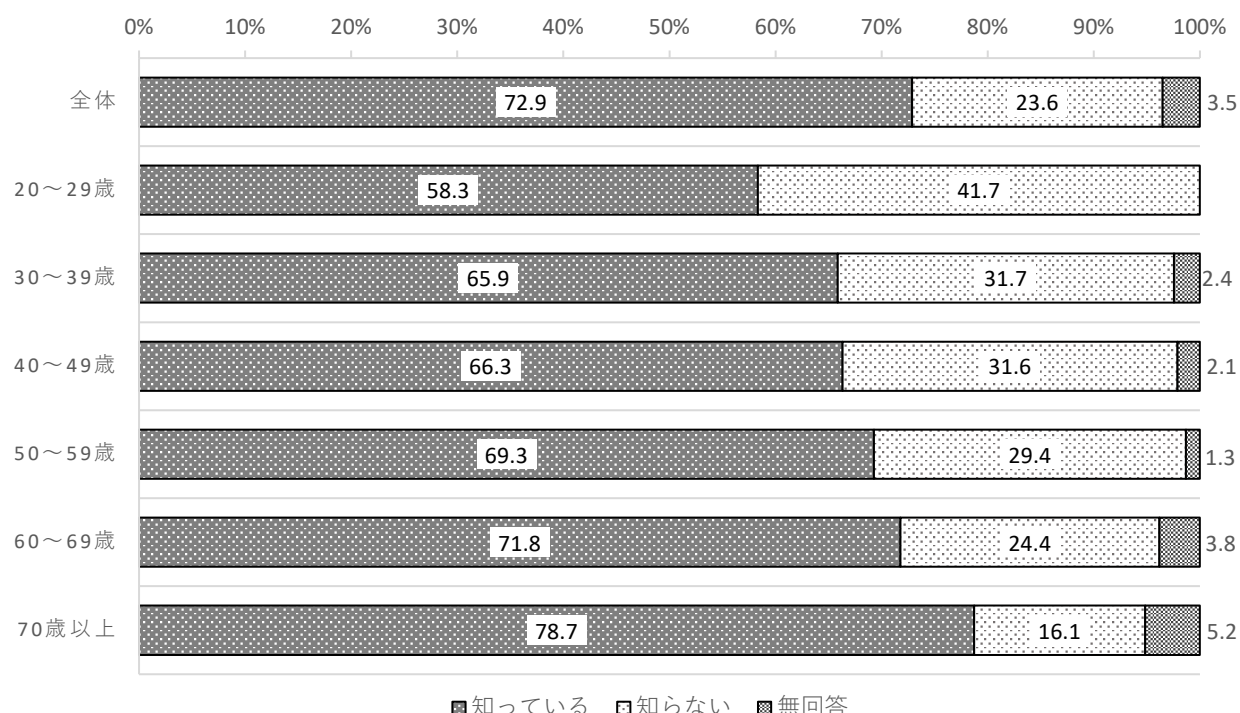
※( )内数値は、令和3年度第2回県政モニターアンケート調査数値

＜全年齢に対する自転車乗車用ヘルメット着用努力義務化の認知度＞  
「知っている」が7割超

問2 道路交通法の一部改正(令和5年4月1日施行)により、全年齢に対する自転車乗車用ヘルメットの着用が努力義務化されることを知っていますか。(〇は1つ)

	n=822	回答数 (人)	割合 (%)
知っている		599	72.9
知らない		194	23.5
無回答		29	3.5

●「知っている」と回答した割合は72.9%であり、年代別では70歳以上が78.7%で最も高い。

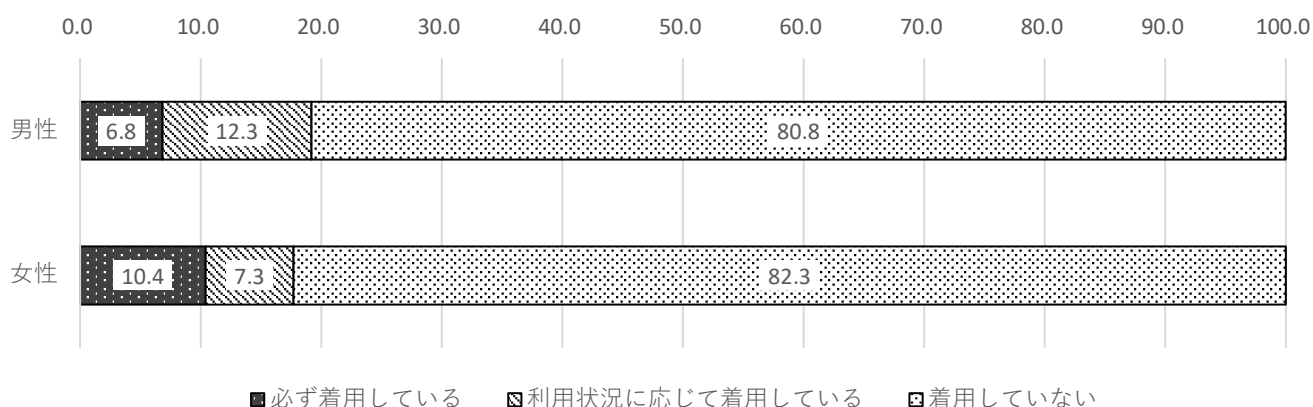
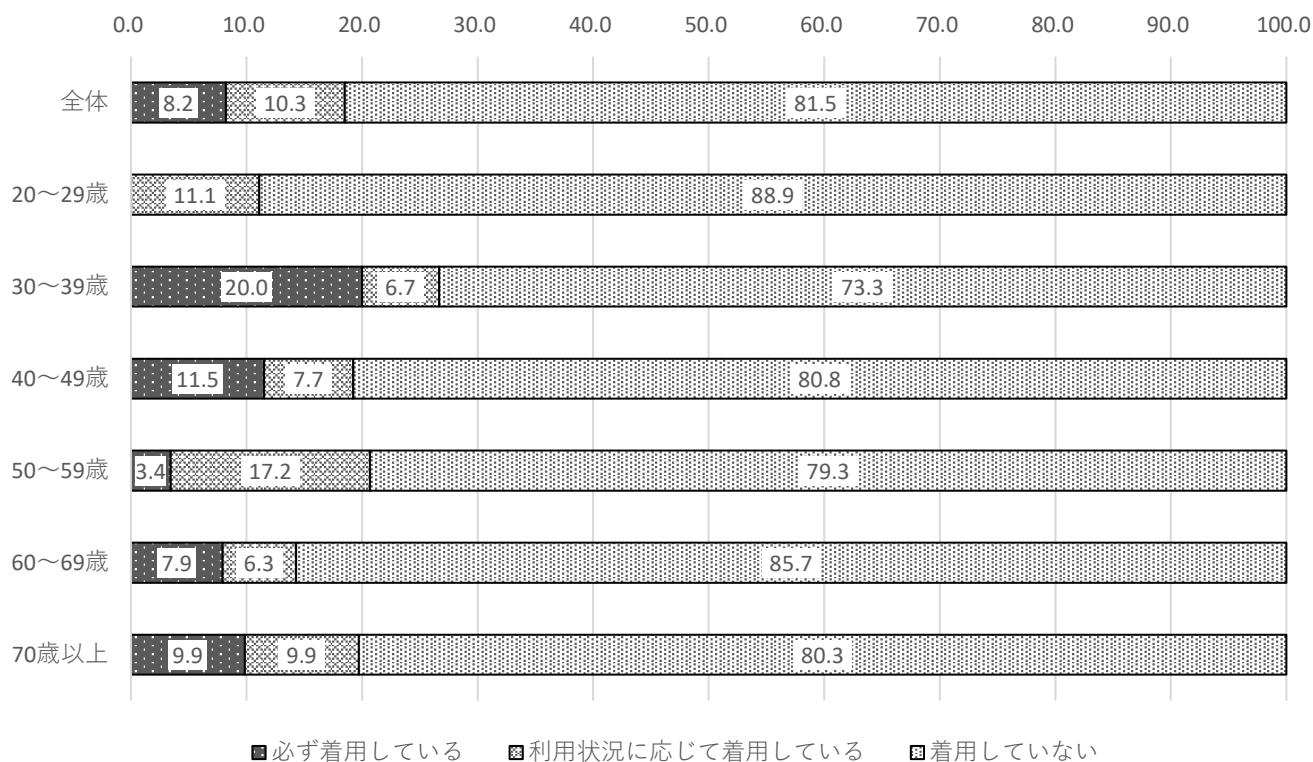


＜自転車利用時のヘルメットの着用状況＞  
「着用していない」が約8割

問3 問1-1で「①自転車を利用する」を回答された方に伺います。自転車利用時のヘルメットの着用についてあなたの状況に近いものを選んでください。(〇は1つ)

	今回調査n=243		(参考)前回 R3.12月調査n=174	
	回答数 (人)	割合 (%)	回答数 (人)	割合 (%)
必ず着用している	20	8.2	14	8.1
利用状況(夜間や遠出等)に応じて着用している	25	10.3	22	12.6
着用していない	198	81.5	138	79.3

●「着用していない」が81.5%で最も多く、次いで「利用状況(夜間や遠出等)に応じて着用している」(10.3%)、「必ず着用している」(8.2%)となった。

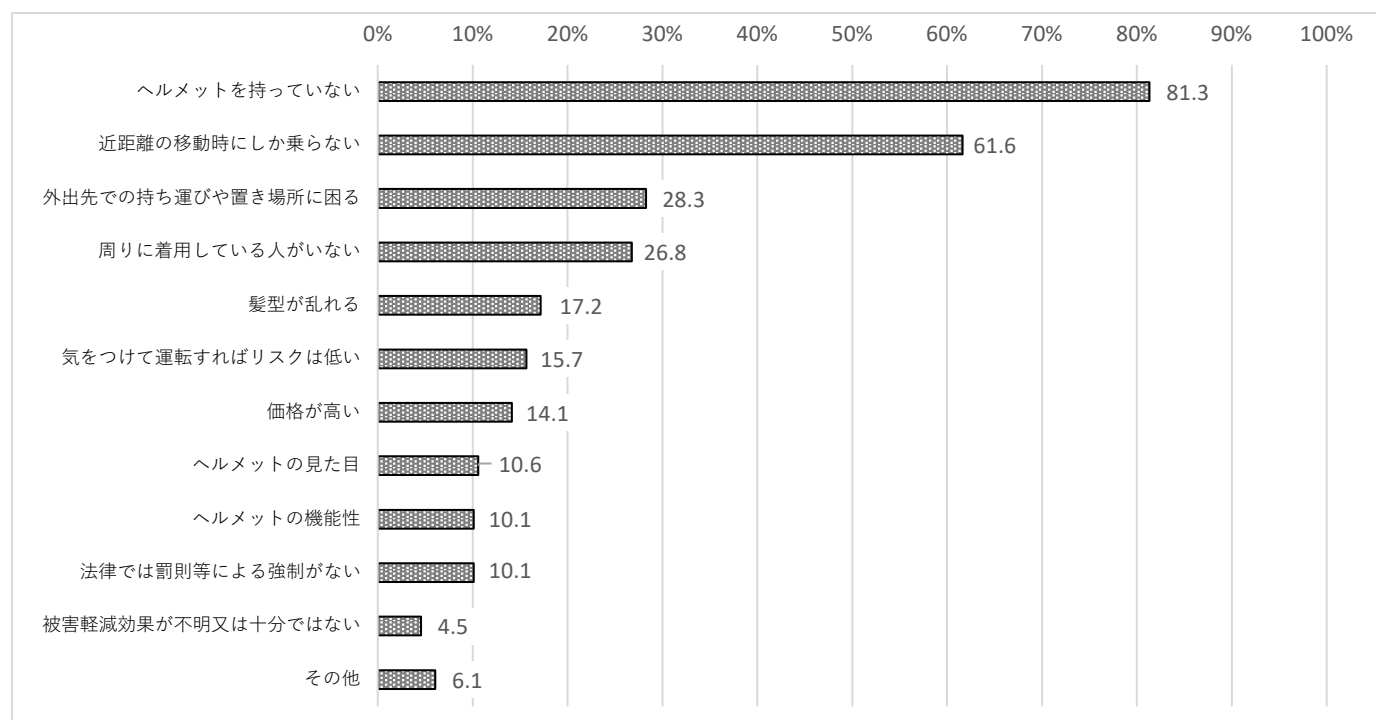


＜自転車利用時にヘルメットを着用していない理由＞  
「ヘルメットを持っていないから」が約8割

問4 問3で「③着用していない」を回答された方に伺います。自転車利用時にヘルメットを着用していない理由についてあなたの状況に近いものを選んでください。(〇はいくつでも)

	n=198	回答数 (人)	割合 (%)
ヘルメットを持っていないから		161	81.3
近距離の移動時にしか乗らないから		122	61.6
外出先でのヘルメットの持ち運びや置き場所に困るから		56	28.3
周りに着用している人がいないから		53	26.8
髪型が乱れるから		34	17.2
気をつけて運転すれば事故やケガのリスクは低いと感じるから		31	15.7
ヘルメットの価格が高いから(経済的負担になる)		28	14.1
ヘルメットの見目(デザイン)にマイナスイメージがあるから		21	10.6
ヘルメットの機能性(使用感・通気性)にマイナスイメージがあるから		20	10.1
法律では罰則等による強制がないから		20	10.1
ヘルメットの被害軽減効果が不明又は十分ではないと感じるから		9	4.5
その他		12	6.1

●「ヘルメットを持っていないから」が81.3%と最も多く、次に「近距離の移動時にしか乗らないから」(61.6%)、「外出先での持ち運びや置き場所に困るから」(28.3%)となった。



その他としては、「ヘルメットを着用する習慣がないため」「年に数回しか乗らない」「補聴器をつけている」「面倒だから」等の回答が見られた。

## 《人権に関する意識について》

### ＜人権を尊重する意識の状況＞

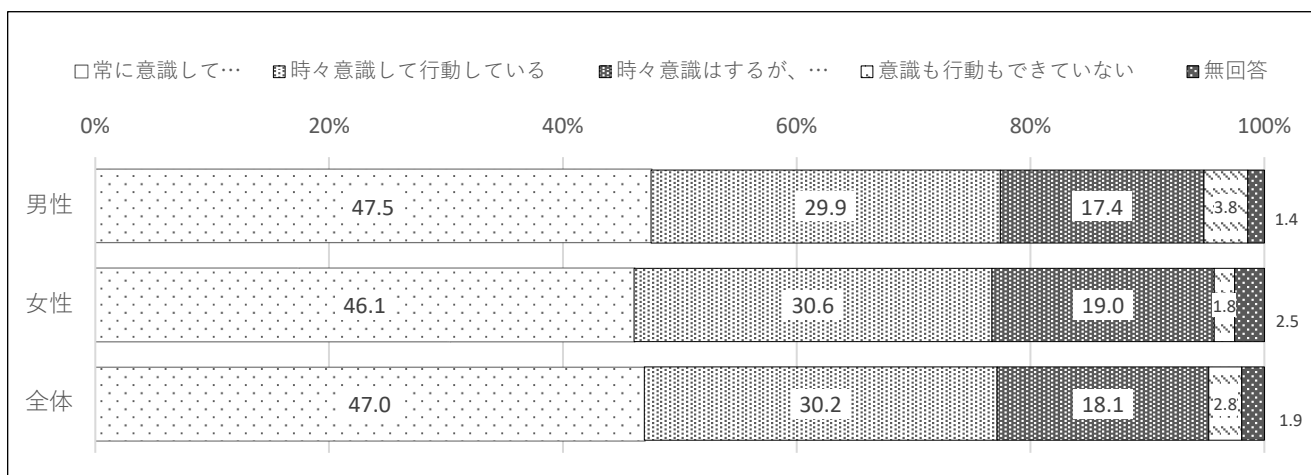
「常に意識して尊重するよう行動している」と「時々意識して行動している」が合わせて8割弱

問5 他者の人権を尊重することについて、あなたは普段から意識して行動していますか。(〇は1つ)

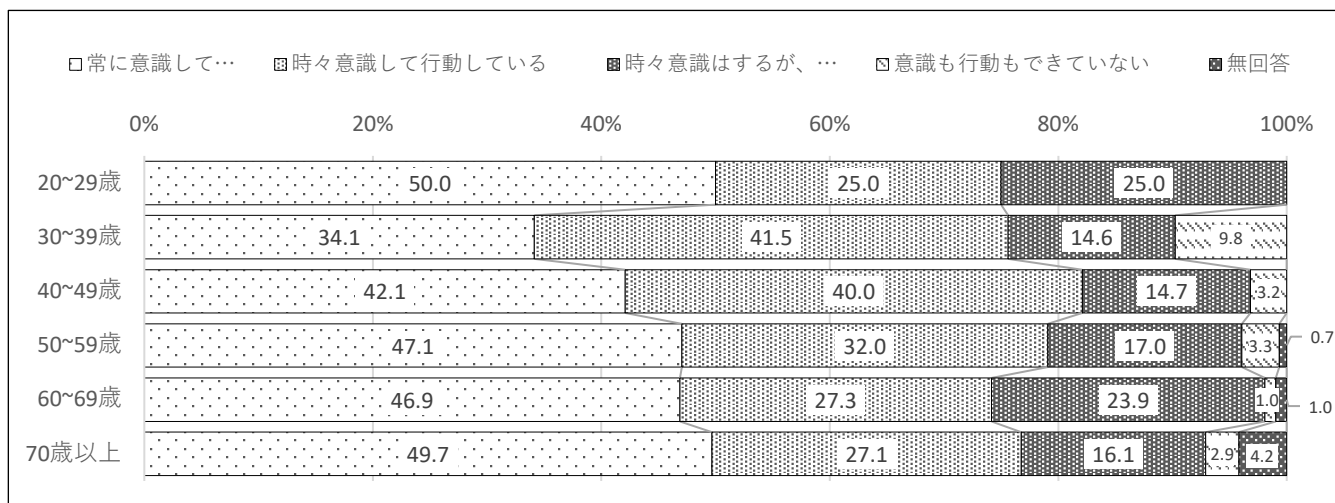
	今回調査 n=822		(参考) 前回 R3.12月調査 n=439	
	回答数(人)	割合(%)	回答数(人)	割合(%)
常に意識して尊重するよう行動している	386	47.0	238	54.2
時々意識して行動している	248	30.2	143	32.6
時々意識はするが、行動に繋がっていない	149	18.1	53	12.1
意識も行動もできていない	23	2.8	5	1.1
無回答	16	1.9	0	0

●「常に意識して尊重するよう行動している」、「時々意識して行動している」の割合は合わせて77.2%で、「時々意識はするが、行動に繋がっていない」「意識も行動もできていない」の割合は合わせて20.9%となっている。

●男女別では、「常に意識して尊重するよう行動している」、「時々意識して行動している」に大きな差は見られない。



●年代別では、「常に意識して尊重するよう行動している」、「時々意識して行動している」を合わせた割合が高いのは40代(82.1%)、次いで50代(79.1%)であった。



<身近で起きている人権問題>

「障がい者に関すること」が約4割、「高齢者に関すること」が3割超

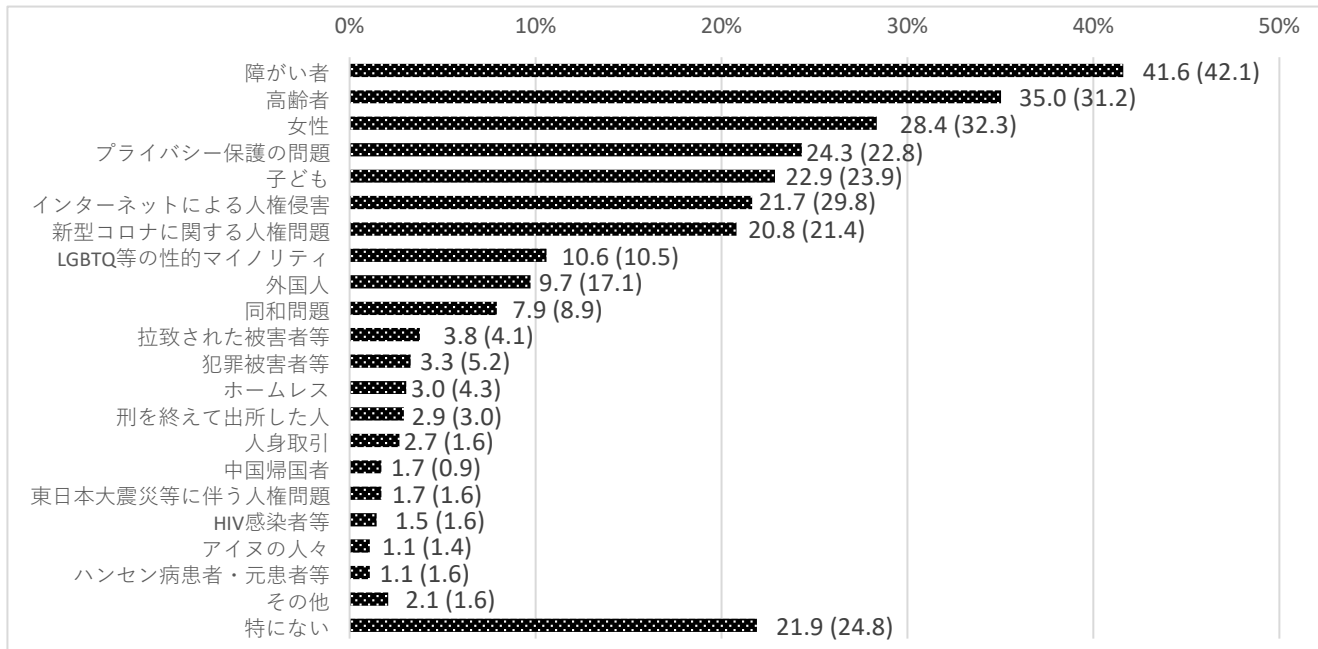
問6 あなたの身の回りで起きている身近な人権問題は何ですか。あてはまるものを選んでください。(〇はいくつでも)

	今回調査 n=822		(参考)前回 R3.12月調査n=439	
	回答数 (人)	割合 (%)	回答数 (人)	割合 (%)
障がい者に関すること	342	41.6	185	42.1
高齢者に関すること	288	35.0	137	31.2
女性に関すること	233	28.4	142	32.3
プライバシー保護の問題に関すること	200	24.3	100	22.8
子どもに関すること	188	22.9	105	23.9
インターネットによる人権侵害	178	21.7	131	29.8
新型コロナウイルス感染症に関する人権問題(不当な取扱いや誹謗中傷)	171	20.8	94	21.4
LGBTQ(※)等の性的少数者に関すること	87	10.6	46	10.5
外国人に関すること	80	9.7	75	17.1
同和問題に関すること	65	7.9	39	8.9
北朝鮮当局によって拉致された被害者等に関すること	31	3.8	18	4.1
犯罪被害者等に関すること	27	3.3	23	5.2
ホームレスに関すること	25	3.0	19	4.3
刑を終えて出所した人に関すること	24	2.9	13	3.0
人身取引(性的搾取、強制労働等を目的とした人身取引)に関すること	22	2.7	7	1.6
中国帰国者(永住帰国した中国残留邦人等)に関すること	14	1.7	4	0.9
東日本大震災等の災害発生に伴う人権問題に関すること	14	1.7	7	1.6
HIV感染者等に関すること	12	1.5	7	1.6
アイヌの人々に関すること	9	1.1	6	1.4
ハンセン病患者・元患者等に関すること	9	1.1	7	1.6
その他	17	2.1	7	1.6
特にない	180	21.9	109	24.8

※LGBTQ…女性同性愛者(レズビアン)、男性同性愛者(ゲイ)、異性も同性も好きになる人(バイセクシュアル)、生物学的な性と性自認が異なる人(トランスジェンダー)、性自認や性的指向が明確でない人(クエスチョニング)の略。

●「障がい者に関すること」が41.6%と最も多く、次に「高齢者に関すること」(35.0%)、「女性に関すること」(28.4%)となっている。

●前回調査と比較して、高齢者が3.8ポイントの増となった一方、インターネットによる人権侵害が8.1ポイント、外国人が7.4ポイント、女性が3.9ポイントの減となった。



※( )内数値は、令和3年度第2回県政モニターアンケート調査数値



<LGBTQ等の性的マイノリティに関する認識の状況>

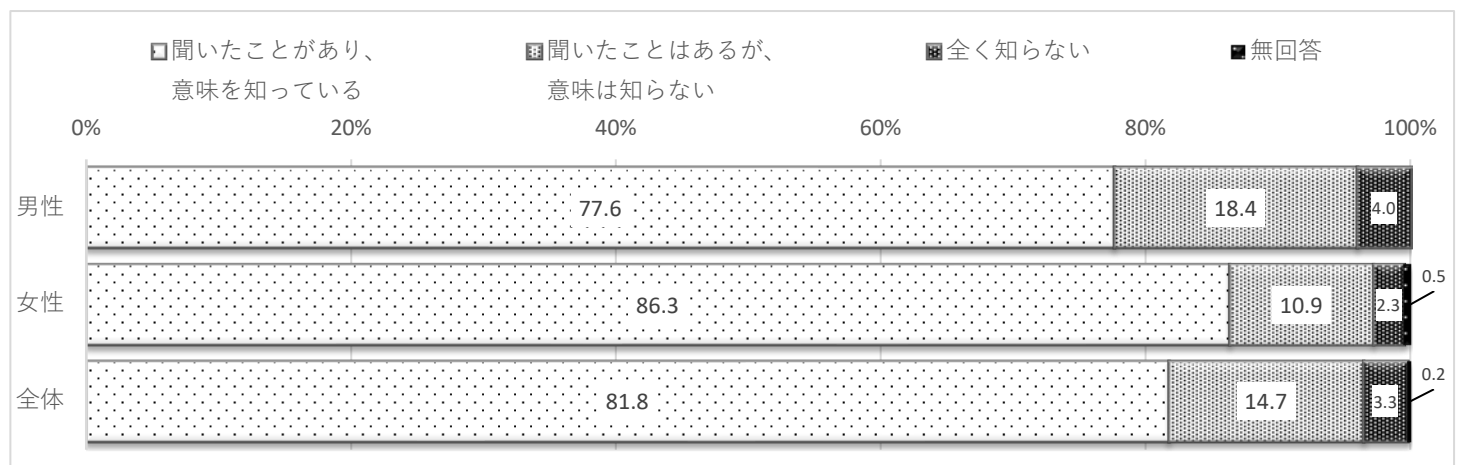
「聞いたことがあり、意味を知っている」が約8割、「聞いたことはあるが、意味は知らない」、「全く知らない」が合わせて約2割

問7 あなたは、このアンケート調査より前に、「LGBTQ」または「性的マイノリティ」という言葉について聞いたことがありましたか。または、意味を知っていましたか。(〇は1つ)

	n=822	回答数(人)	割合(%)
聞いたことがあり、意味を知っている		672	81.8
聞いたことはあるが、意味は知らない		121	14.7
全く知らない		27	3.3
無回答		2	0.2

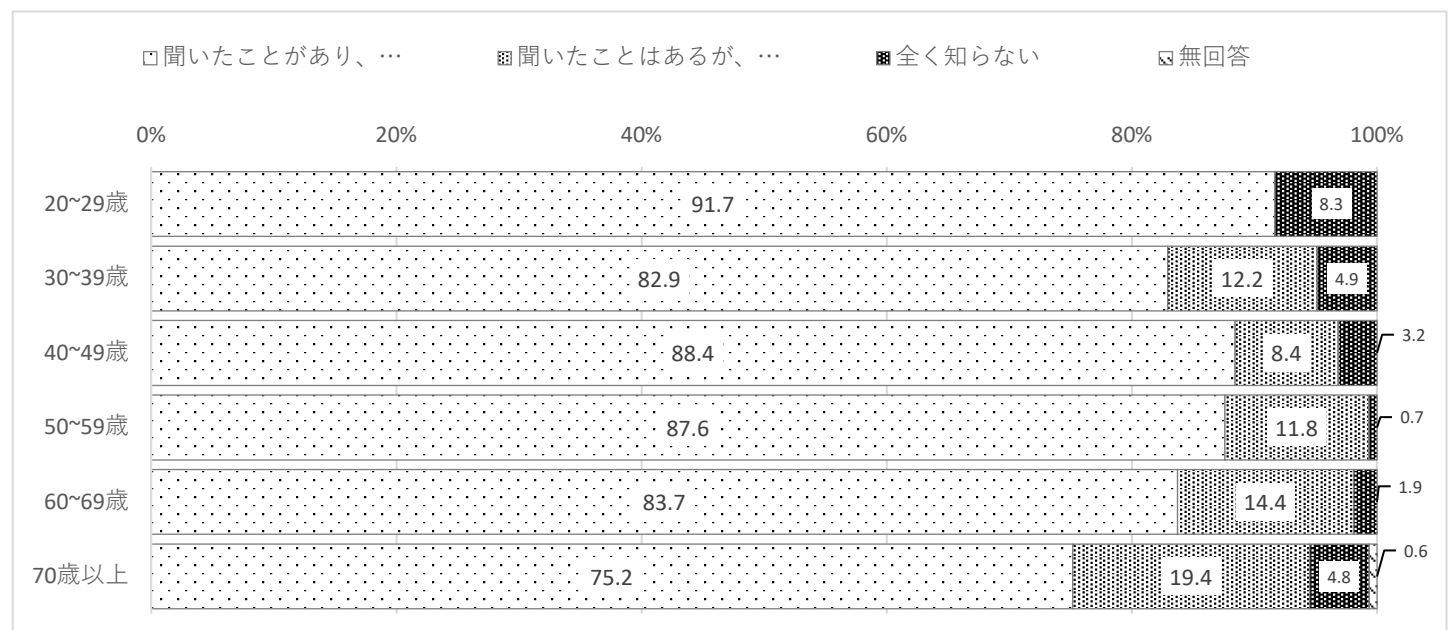
●「聞いたことがあり、意味を知っている」の割合は81.8%で、「聞いたことはあるが、意味を知らない」、「全く知らない」を合わせた割合は18%となっている。

●男女別では、「聞いたことがあり、意味を知っている」の割合が、女性(86.3%)の方が男性(77.6%)に比べ高くなっている。



●年代別では、「聞いたことがあり、意味を知っている」の割合が高いのは、20代(91.7%)であった。

●「聞いたことはあるが、意味は知らない」、「全く知らない」を合わせた割合が高いのは、70代以上(24.2%)であった。



<性的マイノリティの当事者から打ち明けられたときの対応>

「今までと変わりなく付き合う」が6割超、「本人の気持ちを受け止め、支援する」が約2割

問8 あなたは、身近な人から性的マイノリティであることを打ち明けられたらどうしますか。または、どうしましたか。(〇は1つ)

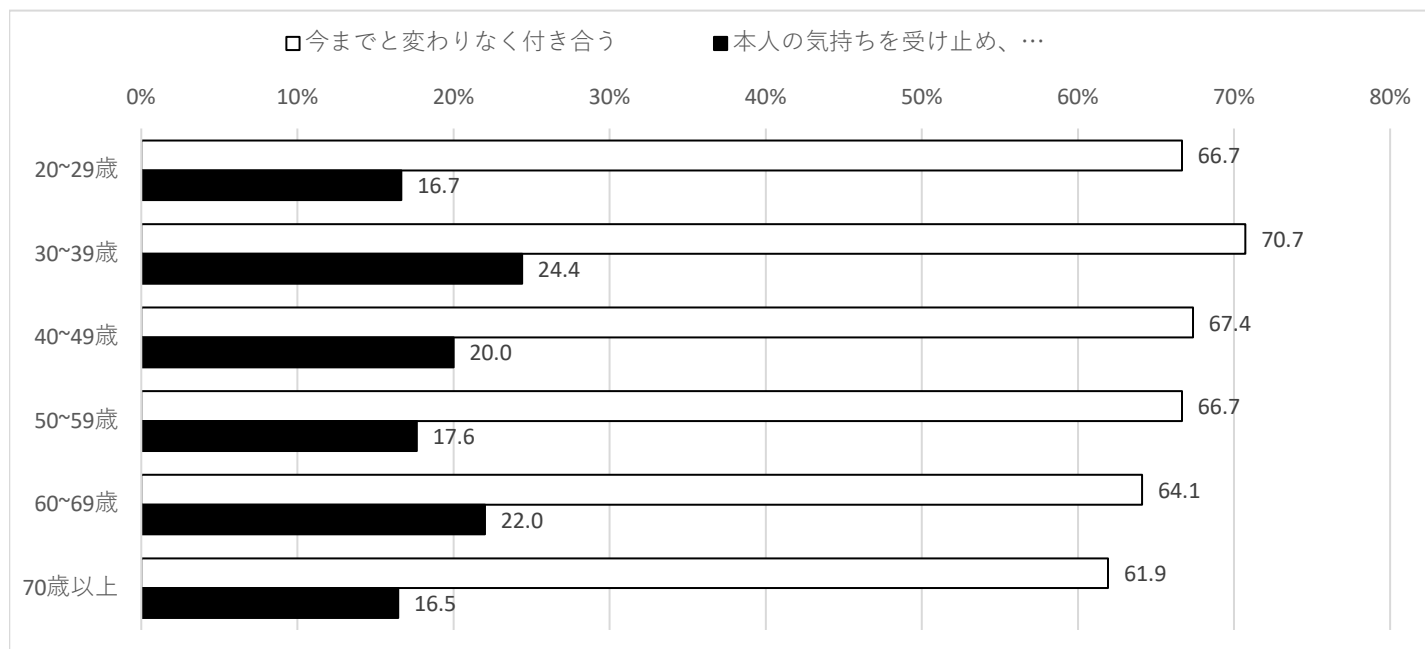
	n=822	回答数(人)	割合(%)
今までと変わりなく付き合う		530	64.5
本人の気持ちを受け止め、支援する		155	18.9
気持ちを隠すよう伝える		4	0.5
疎遠になる、または付き合いをやめる		10	1.2
守秘義務のある公的機関に相談する		6	0.7
その他		14	1.7
わからない		97	11.8
無回答		6	0.7

●「今までと変わりなく付き合う」の割合は64.5%と最も高く、次いで「本人の気持ちを受け止め、支援する」が18.9%であった。

●「わからない」の割合は、11.8%であった。

●「疎遠になる、または付き合いをやめる」、「気持ちを隠すよう伝える」は、合わせて1.7%であった。

●年代別では、「今までと変わりなく付き合う」、「本人の気持ちを受け止め、支援する」の割合が最も高いのは、ともに30代であった。



その他としては、「T(トランスジェンダー)については本人の気持ちを受け止められるが、I(レズビアン),G(ゲイ),B(バイセクシュアル),Q(クエスチョニング)についてはどの様に受け止めればよいかわからない」、「変わりなく付き合いたいと思うが、仕草に出てしまうかもしれない」等の回答が見られた。

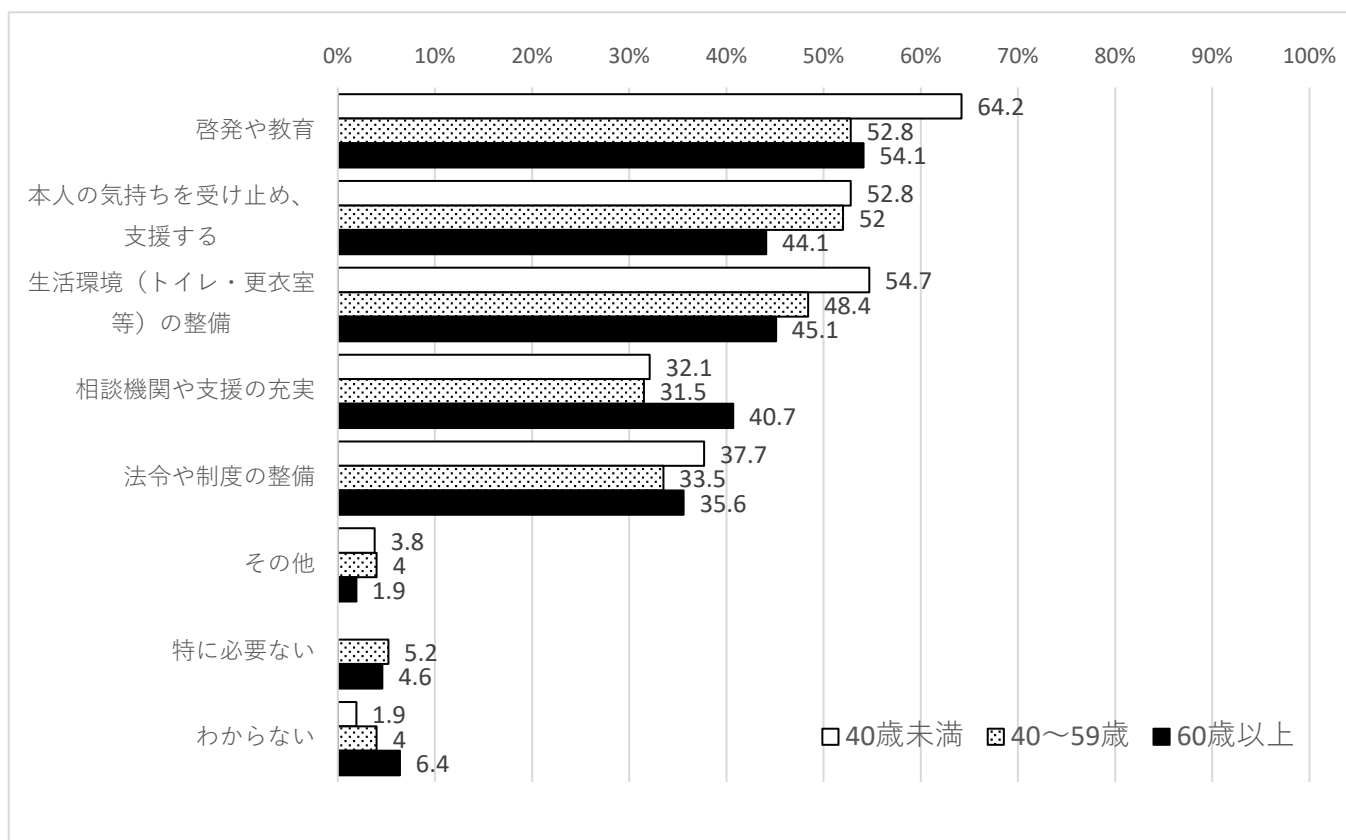
＜性的マイノリティに関する人権問題に必要な支援＞

「啓発や教育」が全体の5割超、「本人の気持ちを受け止め、支援する」「生活環境(トイレ・更衣室等)の整備」が5割弱

問9 性的マイノリティに関する人権問題では、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

	n=822	全体		個別		
		回答数 (人)	割合 (%)	40歳未満 割合(%)	40～59歳 割合(%)	60歳以上 割合(%)
啓発や教育		447	54.4	64.2	52.8	54.1
本人の気持ちを受け止め、支援する		388	47.2	52.8	52.0	44.1
生活環境(トイレ・更衣室等)の整備		385	46.8	54.7	48.4	45.1
相談機関や支援の充実		307	37.4	32.1	31.5	40.7
法令や制度の整備		289	35.2	37.7	33.5	35.6
その他		23	2.8	3.8	4.0	1.9
特に必要ない		37	4.5	0.0	5.2	4.6
わからない		44	5.4	1.9	4	6.4

●「啓発や教育」が全体の54.4%と最も多い。年代別の傾向としては、「特に必要ない」が40～59歳の中年層、60歳以上の高齢層ともに選択されている。



その他としては、「特に思春期の者を対象とした相談・医療の支援体制の整備」、「固定観念にとらわれない」、「学校内でも協力すること」、「特別扱いしない」等の回答が見られた。

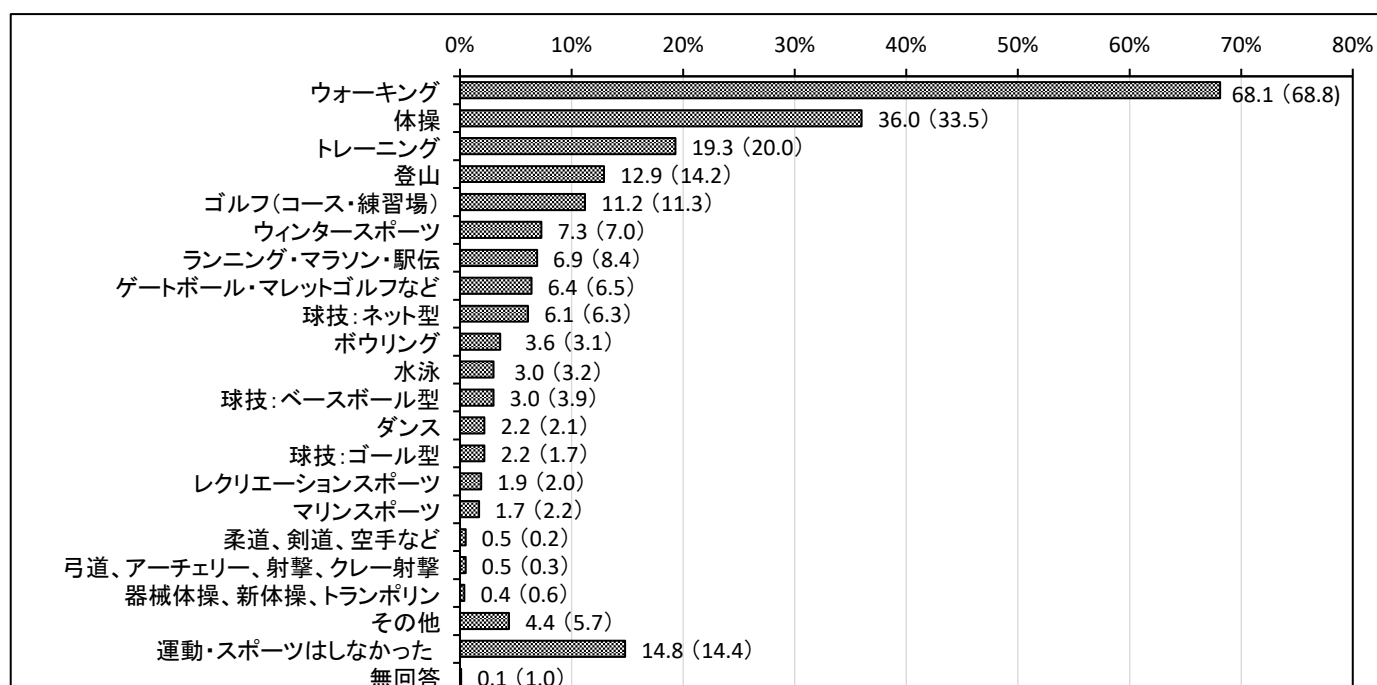
## 《運動・スポーツに関する実感について》

＜この1年間に行った運動・スポーツの種類＞  
「ウォーキング」が約7割、「体操」が3割超

問10 以下の中であたががこの1年間に行った運動やスポーツがあれば、当てはまるものを選んでください。ただし、学校の体育の授業として行ったものや、職業として行ったものは除きます。(〇はいくつでも)「㊦この1年間に運動・スポーツはしなかった」に当てはまる場合は、問13へ進んでください。

	今回調査 n=822		(参考)前回 R4.6月調査 n=862	
	回答数 (人)	割合 (%)	回答数 (人)	割合 (%)
ウォーキング(散歩・ぶらぶら歩き・一駅歩きなどを含む)	560	68.1	593	68.8
体操(ラジオ体操、ご当地オリジナル体操、職場体操、美容体操、エアロビクス、縄跳びなど)	296	36.0	289	33.5
トレーニング(筋肉トレーニング、トレッドミル、室内運動器具を使ってする運動など)	159	19.3	172	20.0
登山・トレッキング(クライミングを含む)、キャンプ、ハイキング、ワンダーフォーゲル	106	12.9	122	14.2
ゴルフ(コース・練習場)	92	11.2	97	11.3
ウィンタースポーツ(スキー・スノーボード・スケート・アイスホッケー・カーリングなど)	60	7.3	60	7.0
ランニング(ジョギング)・マラソン・駅伝	57	6.9	72	8.4
ゲートボール・グラウンドゴルフ・マレットゴルフ・パターゴルフ・スナッグゴルフなど	53	6.4	56	6.5
球技:ネット型(バレーボール、テニス、バドミントン、卓球など)	50	6.1	54	6.3
ボウリング	30	3.6	27	3.1
水泳(競泳・水球・飛込・アーティスティックスイミング、アクアエクササイズなど)	25	3.0	28	3.2
球技:ベースボール型(野球(硬式・軟式)・ソフトボール(キャッチボールなど含む))	25	3.0	34	3.9
ダンス(フォークダンス・ジャズダンス・社交ダンス・民謡踊り・フラダンスなど)	18	2.2	18	2.1
球技:ゴール型(サッカー・フットサル、バスケットボールなど)	18	2.2	15	1.7
レクリエーションスポーツ(ティーボール・インディアカ・スポーツチャンバラ・ポッチャ・スポーツ吹矢・ドッジボールなど)	16	1.9	17	2.0
マリンスポーツ(ボート・カヌー・ヨット・水上スキー・ダイビング・サーフィン・釣りなど)	14	1.7	19	2.2
柔道、剣道、空手、相撲、ボクシング、レスリング	4	0.5	2	0.2
弓道、アーチェリー、射撃、クレ射撃	4	0.5	3	0.3
器械体操、新体操、トランポリン	3	0.4	5	0.6
その他	36	4.4	49	5.7
この1年間に運動・スポーツはしなかった	122	14.8	124	14.4
無回答	1	0.1	9	1.0

●「ウォーキング」が68.1%と最も高く、次いで「体操」(36.0%)、「トレーニング」(19.3%)となっており、前回調査同様の運動・スポーツが上位を占めた。自分の生活リズムに合わせて身近で手軽にできる運動・スポーツの人気傾向が続いている。



※( )内数値は、令和4年度第1回県政モニターアンケート調査数値

その他としては、「ストレッチ」、「サイクリング」、「テレビゲームによる運動」等の回答が見られた。

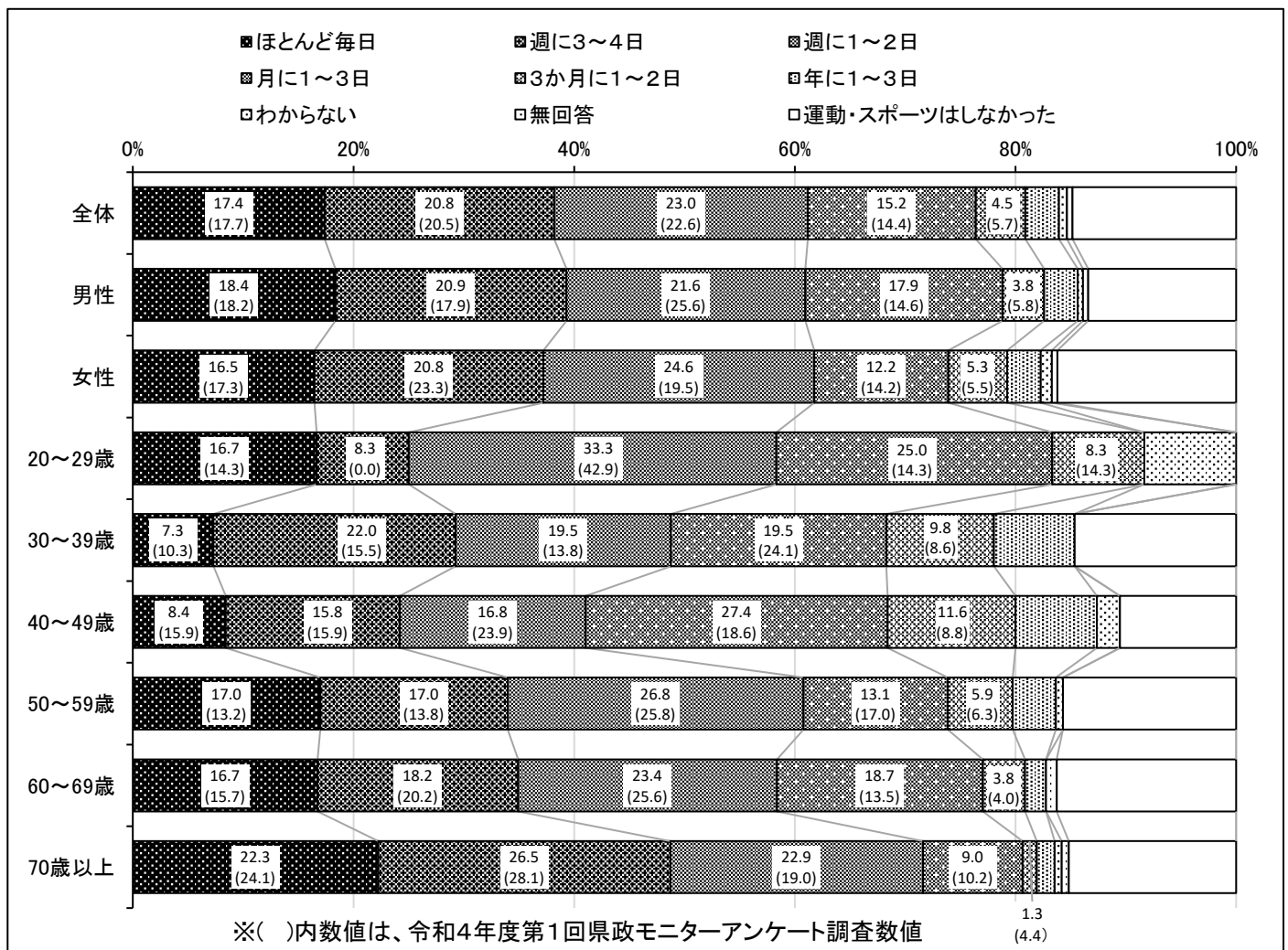
＜この1年間に運動・スポーツを行った日数＞  
週1日以上行っている人が約6割

問11 問10であげた種目を含め、あなたはこの1年間に運動・スポーツを何日程度行いましたか。当てはまるものを選んでください。(○は1つ)

	今回調査 n=822		(参考)前回 R4.6月調査 n=862	
	回答数(人)	割合(%)	回答数(人)	割合(%)
ほとんど毎日	143	17.4	153	17.7
週に3～4日	171	20.8	177	20.5
週に1～2日	189	23.0	195	22.6
月に1～3日	125	15.2	124	14.4
3カ月に1～2日	37	4.5	49	5.7
年に1～3日	25	3.0	29	3.4
わからない	6	0.7	5	0.6
無回答	4	0.5	6	0.7
この1年間に運動・スポーツはしなかった(※)	122	14.8	124	14.4

※問10で「この1年間に運動・スポーツはしなかった」を選択した人(122人)も含めて割合算出

●週1日以上運動・スポーツを行っている人の割合(スポーツ実施率)は61.2%(前回比+0.4)で、「第二次長野県スポーツ推進計画」の令和4年度目標である65%には届かなかったものの前回調査に続き60%を超え過去最高を記録した。「週1日以上」の年齢別では、前回調査同様に70歳以上が71.7%と最も高く、最も低い年齢層は40歳代の41%で前回比-14.7と大幅に減少した。



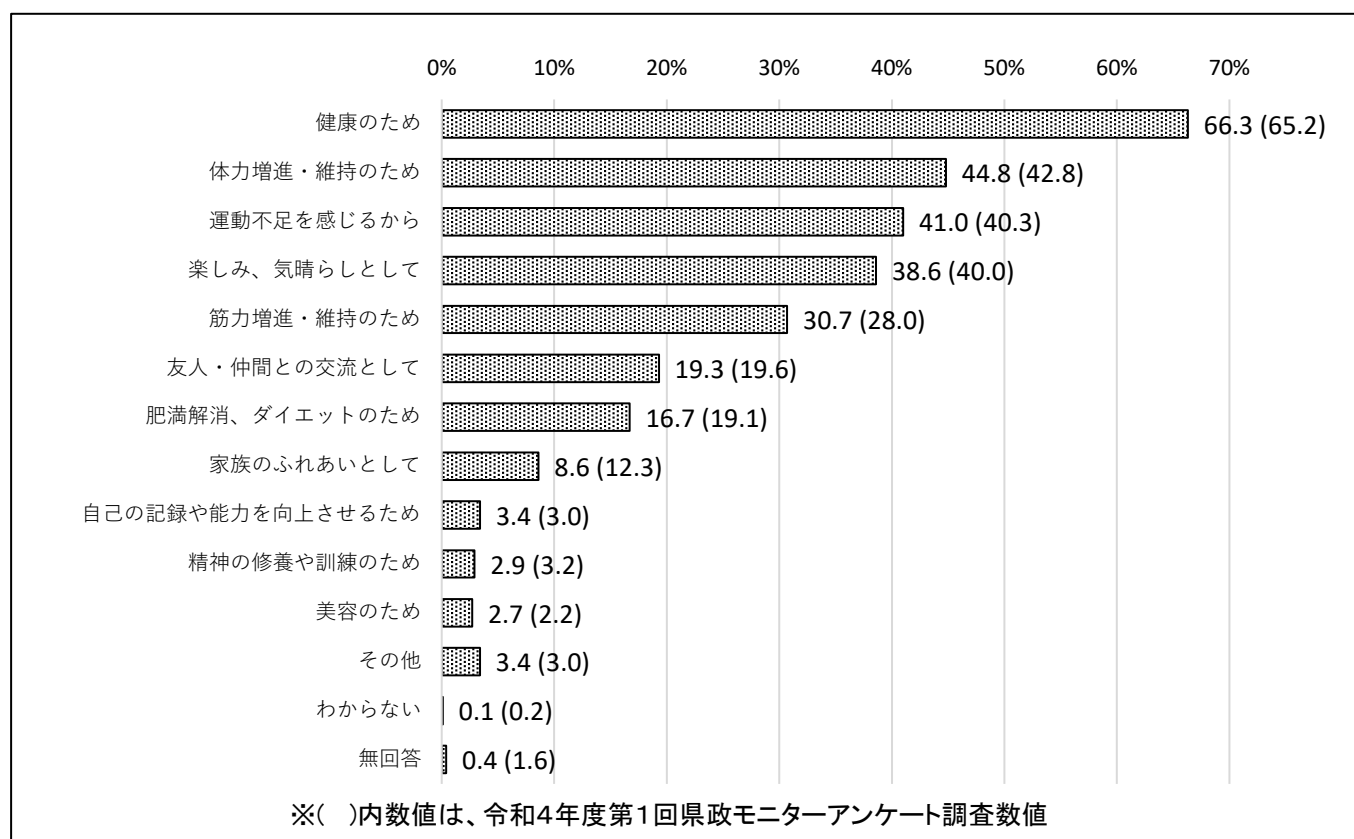
＜この1年間に運動・スポーツを行った理由＞  
「健康のため」が7割弱、「体力増進・維持のため」が4割超、「運動不足を感じるから」が約4割

問12 この1年間に、あなたが運動やスポーツを実施したのどのような理由からですか。当てはまるものを選んでください。（〇はいくつでも）

	今回調査 n=822		(参考) 前回 R4.6月調査 n=862	
	回答数(人)	割合(%)	回答数(人)	割合(%)
健康のため	545	66.3	562	65.2
体力増進・維持のため	368	44.8	369	42.8
運動不足を感じるから	337	41.0	347	40.3
楽しみ、気晴らしとして	317	38.6	345	40.0
筋力増進・維持のため	252	30.7	241	28.0
友人・仲間との交流として	159	19.3	169	19.6
肥満解消、ダイエットのため	137	16.7	165	19.1
家族のふれあいとして	71	8.6	106	12.3
自己の記録や能力を向上させるため	28	3.4	26	3.0
精神の修養や訓練のため	24	2.9	28	3.2
美容のため	22	2.7	19	2.2
その他	28	3.4	26	3.0
わからない	1	0.1	2	0.2
無回答	3	0.4	14	1.6
この1年間に運動・スポーツはしなかった(※)	122	14.8	124	14.4

※問1で「この1年間に運動・スポーツはしなかった」を選択した人(122人)も含めて割合を算出

●「健康のため」が66.3%と最も高く、次いで「体力増進・維持のため」(44.8%)、「運動不足を感じるから」(41.0%)、「楽しみ、気晴らしとして」(38.6%)となっている。前回調査同様、健康志向の理由が上位を占めている。



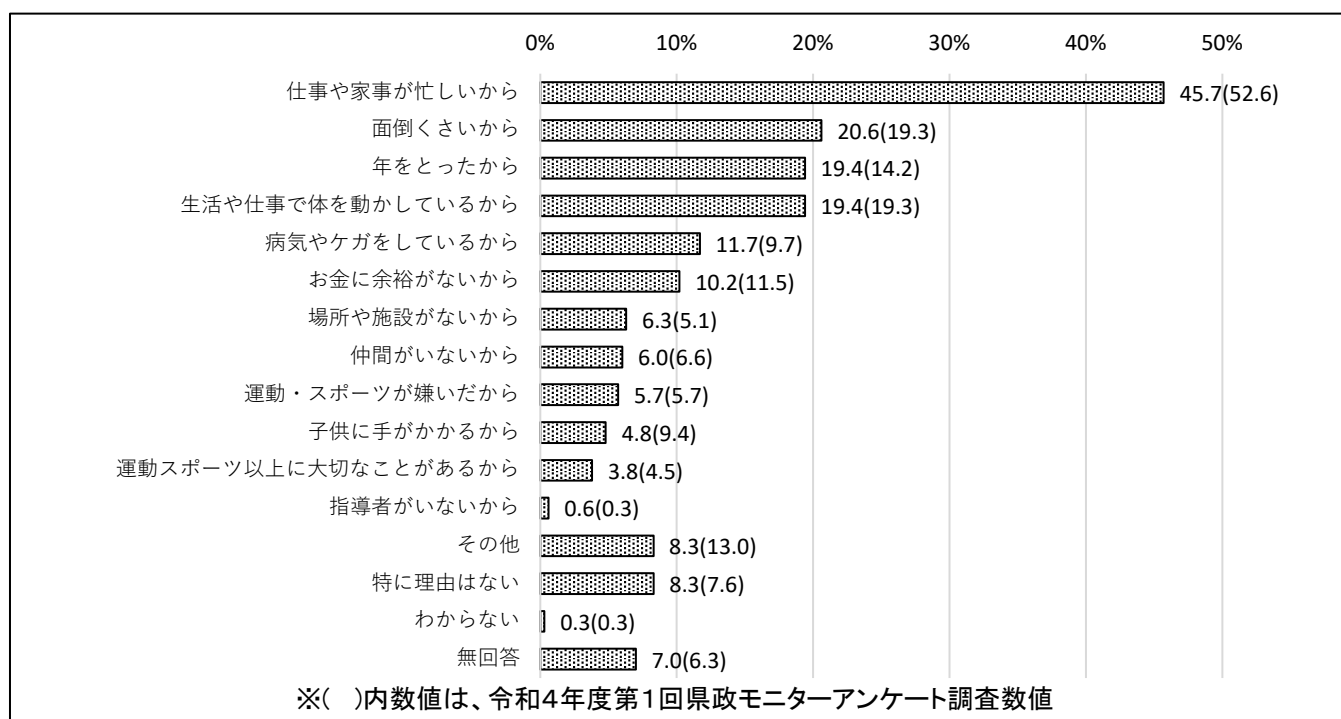
その他としては、「犬の散歩」、「職場でラジオ体操など行っている」等の回答が見られた。

＜この1年間に行った運動・スポーツを週に1日以上できなかった理由＞  
 「仕事や家事が忙しいから」が4割超、「面倒くさいから」・「年をとったから」・「生活や仕事で体を動かしているから」が約2割

問13 問10で①または問11で④～⑦を回答した方に伺います。週に1日以上運動・スポーツを実施できなかった理由は何ですか。当てはまるものを選んでください。(〇はいくつでも)

	今回調査 n=315		(参考)前回 R4.6月調査 n=331	
	回答数(人)	割合(%)	回答数(人)	割合(%)
仕事や家事が忙しいから	144	45.7	174	52.6
面倒くさいから	65	20.6	64	19.3
年をとったから	61	19.4	47	14.2
生活や仕事で体を動かしているから	61	19.4	64	19.3
病気やケガをしているから	37	11.7	32	9.7
お金に余裕がないから	32	10.2	38	11.5
場所や施設がないから	20	6.3	17	5.1
仲間がいないから	19	6.0	22	6.6
運動・スポーツが嫌いだから	18	5.7	19	5.7
子供に手がかかるから	15	4.8	31	9.4
運動スポーツ以上に大切なことがあるから	12	3.8	15	4.5
指導者がいないから	2	0.6	1	0.3
その他	26	8.3	43	13.0
特に理由はない	26	8.3	25	7.6
わからない	1	0.3	1	0.3
無回答	22	7.0	21	6.3

●「仕事や家事が忙しいから」が45.7%(前回比-6.9)と減少したものの前回調査同様に最も高く、次いで「面倒くさいから」(20.6%)、「年をとったから」・「生活や仕事で体を動かしているから」(各19.4%)となっている。仕事や家事による多忙さが圧倒的な要因となっている。



その他としては「新型コロナウイルス感染症の影響」、「家族の介護」等の回答が見られた。

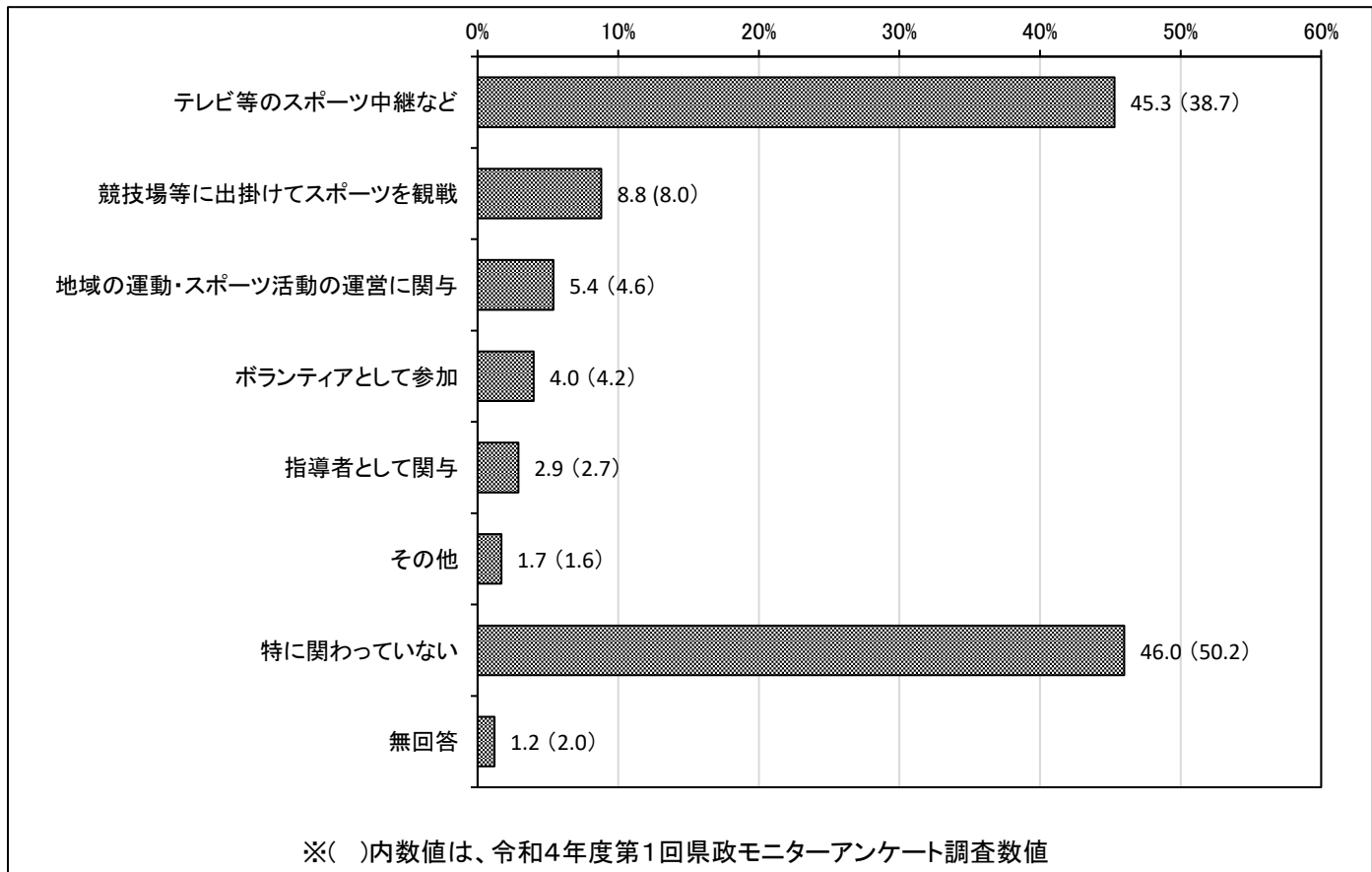
＜運動・スポーツをする以外の関わり方＞

「テレビ等により日常的にスポーツ中継やスポーツ情報に接している」が4割超、「競技場等に出掛けて、スポーツを観戦している」が約1割

問14 あなたは自ら運動・スポーツをする以外に、運動・スポーツにどのような関わり方をしていますか。当てはまるものを選んでください。(〇はいくつでも)

	今回調査 n=822		(参考)前回 R4.6月調査 n=862	
	回答数 (人)	割合 (%)	回答数 (人)	割合 (%)
テレビ等により日常的にスポーツ中継やスポーツ情報に接している	372	45.3	334	38.7
競技場等に出掛けて、スポーツを観戦している	72	8.8	69	8.0
地域の運動・スポーツ活動の運営に携わっている	44	5.4	40	4.6
各種運動・スポーツ行事、大会、教室等へボランティアとして参加している	33	4.0	36	4.2
指導者として関わっている	24	2.9	23	2.7
その他	14	1.7	14	1.6
特に関わっていない	378	46.0	433	50.2
無回答	10	1.2	17	2.0

●「テレビ等により日常的にスポーツ中継やスポーツ情報に接している」が45.3%(前回比+6.6)と最も高く、次いで「競技場等に出掛けて、スポーツを観戦している」が8.8%(前回比+0.8)となっている。テレビ等による観戦割合の増加は、国内外の大会での日本代表や本県にゆかりのある選手・チームの活躍などが理由として考えられる。



その他としては「子供や孫の応援・サポート」等の回答が見られた。



## 《文化芸術活動に関する実感》

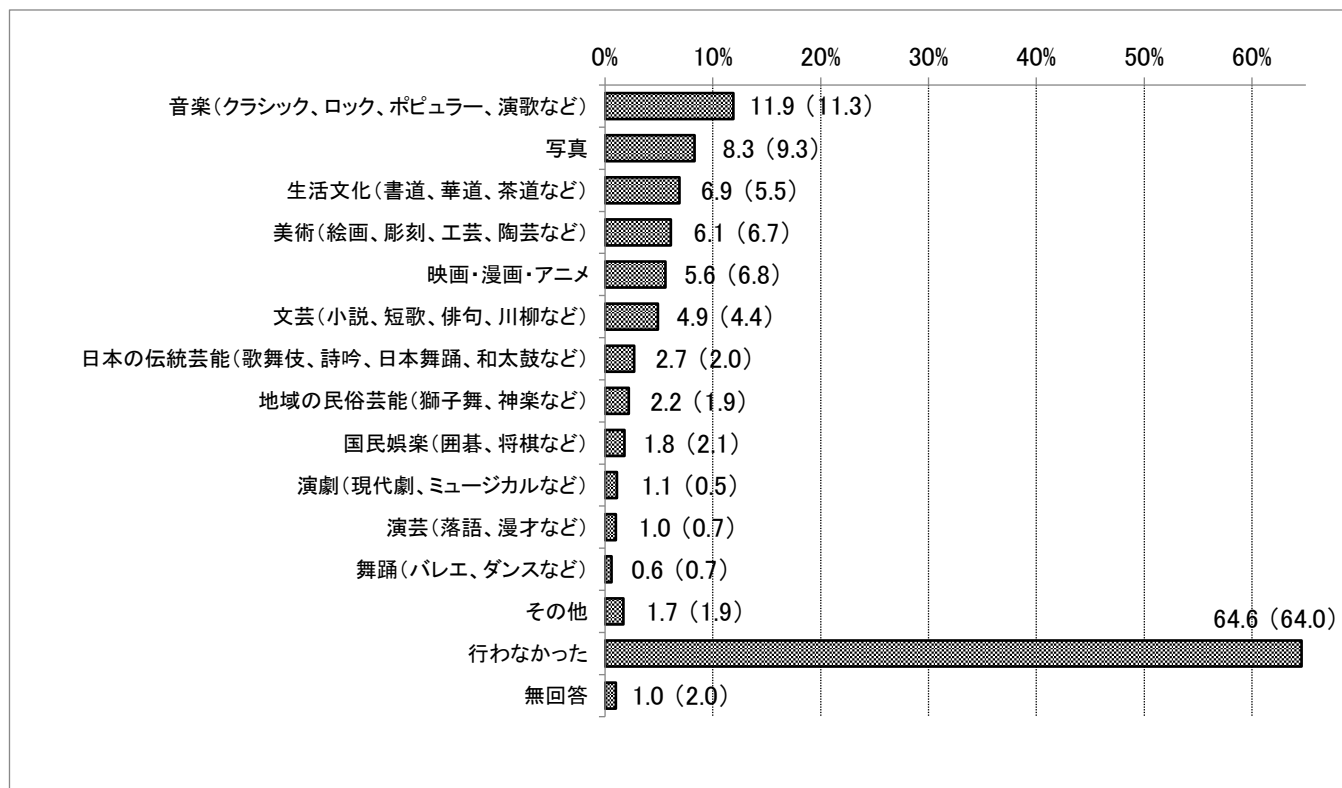
### ＜文化芸術活動に参加した人の割合＞

過去1年間に文化芸術活動(創作・参加)を行った人は3割超  
一方、過去1年間に文化芸術活動(鑑賞)を行った人は8割弱

問15 以下の中で、あなたがこの1年間に行った文化芸術活動(鑑賞を含む)について、当てはまるものをすべて選んでください。(✓はいくつでも、両方でも可)

■ 自ら創作・参加する文化芸術活動を行なった	今回調査 n=822		(参考)前回 R4.6月調査 n=862	
	回答数(人)	割合(%)	回答数(人)	割合(%)
音楽(クラシック、ロック、ポピュラー、演歌など)	98	11.9	97	11.3
写真	68	8.3	80	9.3
生活文化(書道、華道、茶道など)	57	6.9	47	5.5
美術(絵画、彫刻、工芸、陶芸など)	50	6.1	58	6.7
映画・漫画・アニメ	46	5.6	59	6.8
文芸(小説、短歌、俳句、川柳など)	40	4.9	38	4.4
日本の伝統芸能(歌舞伎、詩吟、日本舞踊、和太鼓など)	22	2.7	17	2.0
地域の民俗芸能(獅子舞、神楽など)	18	2.2	16	1.9
国民娯楽(囲碁、将棋など)	15	1.8	18	2.1
演劇(現代劇、ミュージカルなど)	9	1.1	4	0.5
演芸(落語、漫才など)	8	1.0	6	0.7
舞踊(バレエ、ダンスなど)	5	0.6	6	0.7
その他	14	1.7	16	1.9
行わなかった	531	64.6	552	64.0
無回答	8	1.0	17	2.0

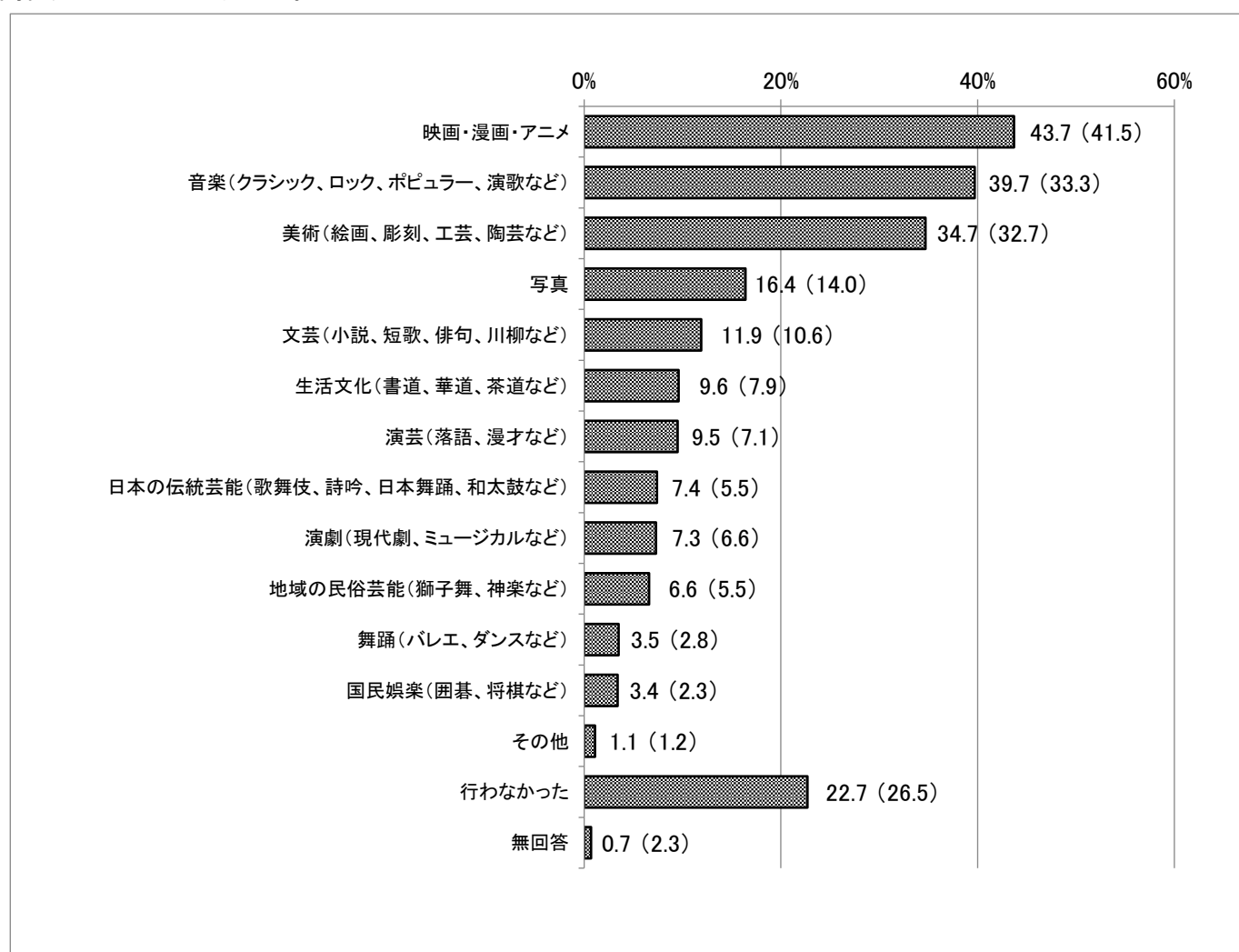
●自ら創作・参加した文化芸術活動は「音楽」(11.9%)が最も高く、次に「写真」(8.3%)、「生活文化」(6.9%)と続いている。当該活動を行った人(回答数から「行わなかった」「無回答」を除いた数値(283人)の割合)は34.4%となった。



その他としては、「裁縫」「絵手紙」「古文書の学習」等の回答があった。

■ 文化芸術作品の鑑賞を行った	今回調査 n=822		(参考)前回 R4.6月調査 n=862	
	回答数(人)	割合(%)	回答数(人)	割合(%)
映画・漫画・アニメ	359	43.7	358	41.5
音楽(クラシック、ロック、ポピュラー、演歌など)	326	39.7	287	33.3
美術(絵画、彫刻、工芸、陶芸など)	285	34.7	282	32.7
写真	135	16.4	121	14.0
文芸(小説、短歌、俳句、川柳など)	98	11.9	91	10.6
生活文化(書道、華道、茶道など)	79	9.6	68	7.9
演芸(落語、漫才など)	78	9.5	61	7.1
日本の伝統芸能(歌舞伎、詩吟、日本舞踊、和太鼓など)	61	7.4	47	5.5
演劇(現代劇、ミュージカルなど)	60	7.3	57	6.6
地域の民俗芸能(獅子舞、神楽など)	54	6.6	47	5.5
舞踊(バレエ、ダンスなど)	29	3.5	24	2.8
国民娯楽(囲碁、将棋など)	28	3.4	20	2.3
その他	9	1.1	10	1.2
行わなかった	187	22.7	228	26.5
無回答	6	0.7	20	2.3

●文化芸術作品の鑑賞は「映画・漫画・アニメ」が43.7%と最も高く、次に「音楽」(39.7%)、「美術」(34.7%)と続いている。当該活動を行った人(回答数から「行わなかった」「無回答」を除いた数値(629人)の割合)は76.5%となった。



その他としては、「庭園・寺社仏閣めぐり」「博物館・企画展の観覧」「公民館の文化祭」等の回答があった。

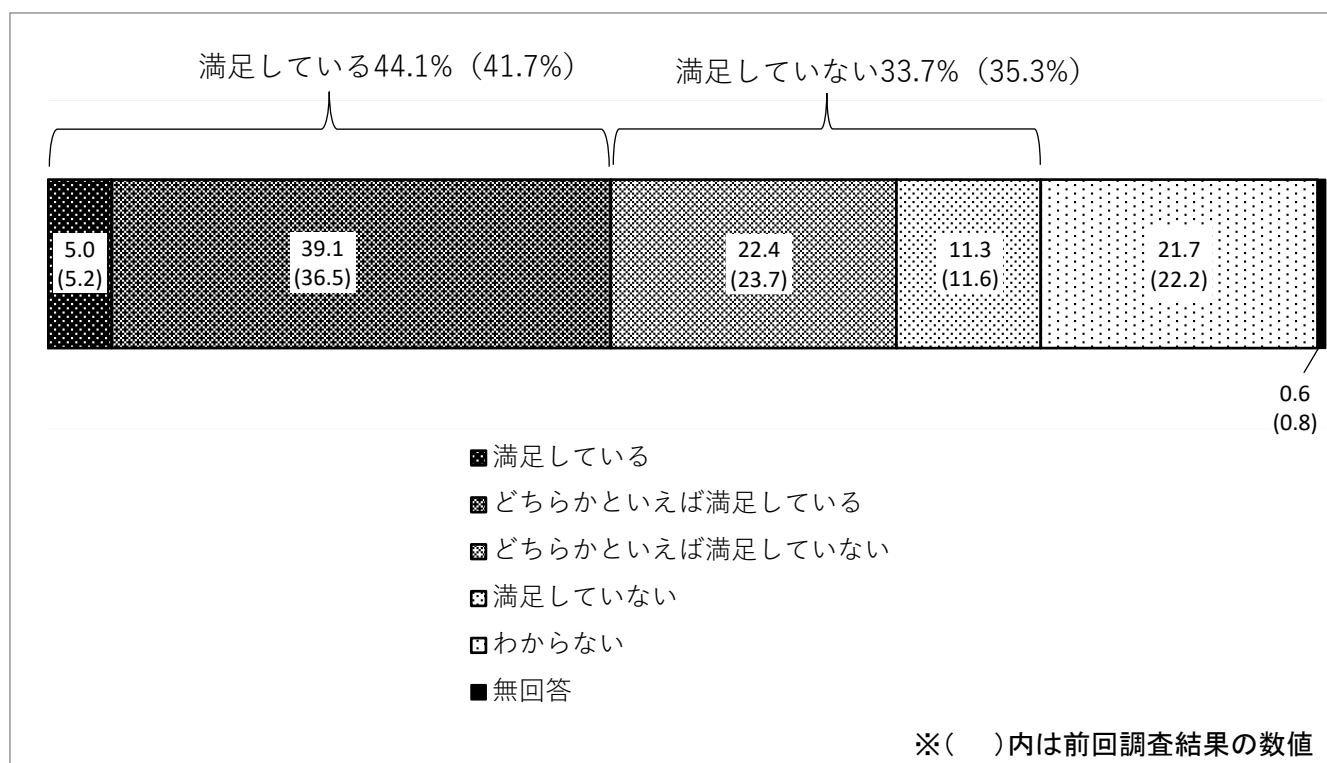
<住んでいる地域の文化的環境の満足度>

「満足している」と「どちらかといえば満足している」は合わせて約4割超

問16 あなたは、あなたが住んでいる市町村の文化的環境、例えば、鑑賞機会、創作・参加機会、文化財や伝統的まちなみの保存・整備などに満足していますか。当てはまるものを選んでください。(○は1つ)

	今回調査 n=822		(参考) 前回 R4.6月調査 n=862	
	回答数(人)	割合(%)	回答数(人)	割合(%)
満足している	41	5.0	45	5.2
どちらかといえば満足している	321	39.1	315	36.5
どちらかといえば満足していない	184	22.4	204	23.7
満足していない	93	11.3	100	11.6
わからない	178	21.7	191	22.2
無回答	5	0.6	7	0.8

●「どちらかといえば満足している」が39.1%と最も高く、次に「どちらかといえば満足していない」(22.4%)、「わからない」(21.7%)と続いている。



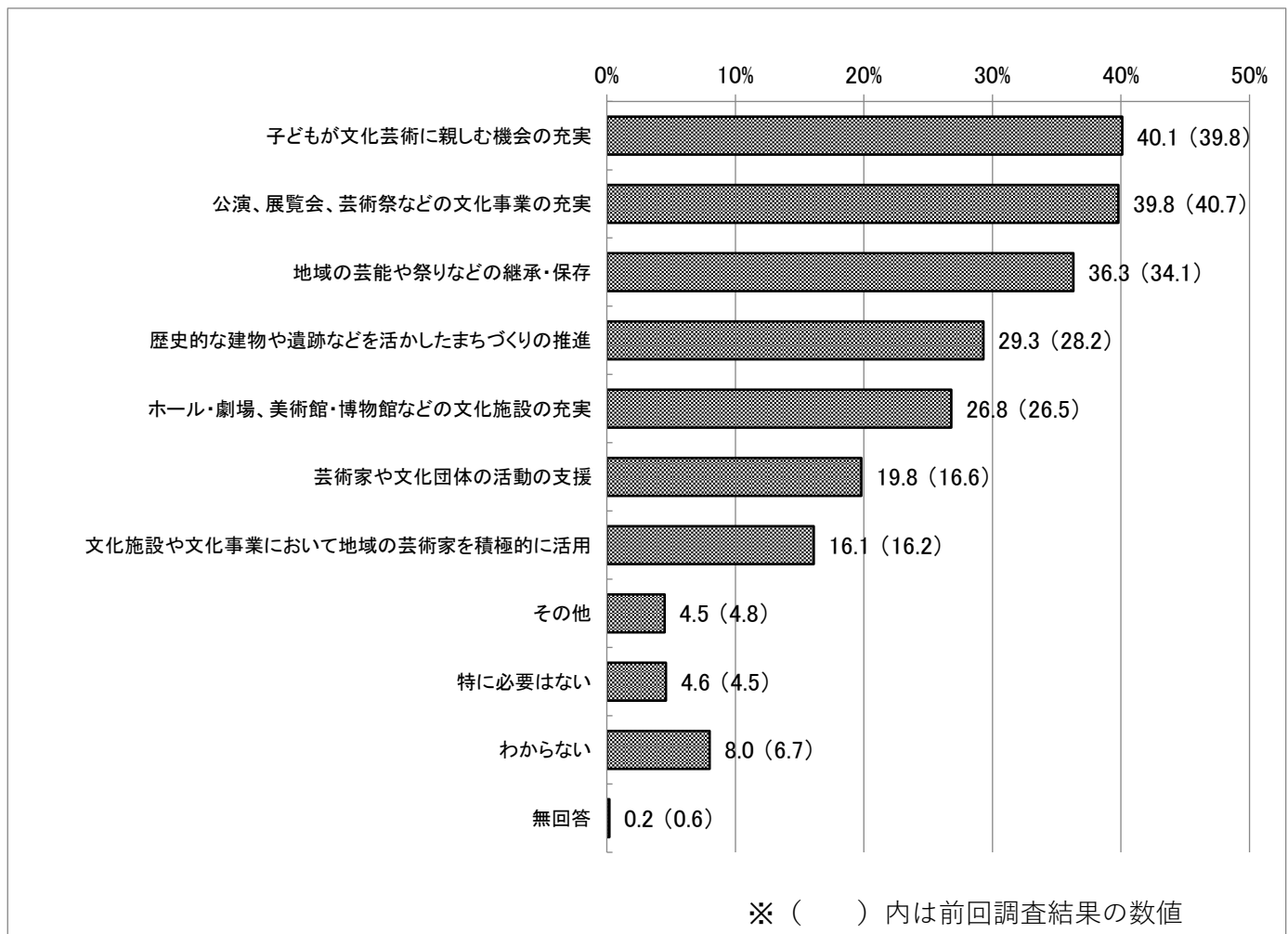
＜地域の文化的環境の充実に必要な事項＞

「子どもが文化芸術に親しむ機会の充実」及び「公演、展覧会、芸術祭などの文化事業の充実」が約4割

問17 あなたは、あなたが住んでいる市町村の文化的環境を満足できるものとするために、何が必要だと思いますか。当てはまるものを選んでください。(〇はいくつでも)

	今回調査 n=822		(参考) 前回 R4.6月調査 n=862	
	回答数(人)	割合(%)	回答数(人)	割合(%)
子どもが文化芸術に親しむ機会の充実	330	40.1	343	39.8
公演、展覧会、芸術祭などの文化事業の充実	327	39.8	351	40.7
地域の芸能や祭りなどの継承・保存	298	36.3	294	34.1
歴史的な建物や遺跡などを活かしたまちづくりの推進	241	29.3	243	28.2
ホール・劇場、美術館・博物館などの文化施設の充実	220	26.8	228	26.5
芸術家や文化団体の活動の支援	163	19.8	143	16.6
文化施設や文化事業において地域の芸術家を積極的に活用	132	16.1	140	16.2
その他	37	4.5	41	4.8
特に必要はない	38	4.6	39	4.5
わからない	66	8.0	58	6.7
無回答	2	0.2	5	0.6

●「子どもが文化芸術に親しむ機会の充実」が40.1%と最も高く、次に「公演、展覧会、芸術祭などの文化事業の充実」(39.8%)、「地域の芸能や祭りなどの継承・保存」(36.3%)と続いている。



その他としては、「図書館の充実」「広報活動」「文化活動に対する公的な助成」等の回答があった。